

# 「検見川送信所を知る会」会報 vol.2

2008/1/27 発行

## 日本初の国際放送の地、千葉市最後の“文化遺産”

【検見川無線送信所】所在地・千葉市花見川区検見川町5-2069。検見川無線送信所は東京中央郵便局、大阪中央郵便局を手がけた建築家・吉田鉄郎氏が設計した大正末期の貴重なコンクリート建築です。1926年竣工。コールサインは日本第1号と表す「J1AA」。1930年10月27日にはロンドン海軍軍縮会議の条約締結を記念した浜口雄幸首相の演説を米英に届けました。これが日本初の国際放送となったのです。戦後も通信技術の向上に貢献しましたが、1979年閉局。現在は廃墟となっています。

【検見川送信所を知る会】送信所の本当の価値を知ろうという目的で、2007年、地元有志らが結成。77年前に日本初の国際放送が行われた昨年07年10月27日、第1回イベントを行いました。当日は台風が直撃する荒れ模様でしたが、市民、送信所OB、建築関係者、会派を超え市議ら50人以上が出席。このイベントの様子は朝日新聞、朝日マイタウン情報、千都よみうり、千葉テレビで報道されました。同会では現在、送信所の利活用の道を探るべく活動しています。



## 白亜の局舎がCGでよみがえった



第1回イベントで講演を行ったホームページ「分離派建築博物館」のきくち氏が竣工当時の検見川送信所の美しい姿をコンピューター・グラフィックスで再現しました。このように修復すれば、千葉の新名所となることでしょう。

<http://www.sainet.or.jp/~junkk/index.htm>

## 2月23日(土)にイベントを企画しています。詳細、後日【裏面も】

検見川送信所を知る会 (代表・仲佐秀雄)

問い合わせ：043-276-0444 mail:kemigawamusen@mail.goo.ne.jp

## 検見川無線送信所の保存と利活用①

### 検見川送信所は「文化財」であるということ

平井東幸 産業考古学会評議員（千葉県）

#### はじめに

検見川送信所の保存問題が去る10月12日の朝日新聞朝刊千葉版で大きく取り上げられ、広く注目を集めています。その前後にも地元メディアが報道しており、千葉市が所有する、この一見すると廃墟にすぎない建物が市民、建築家、議員、研究者等の関心の的になっています。「検見川送信所を知る会」（代表：仲佐先生）からのご依頼もあって、その保存と活用について、少し私見を紹介したいと思います。

なお、私は産業考古学会に所属していますが、その目的は、産業に関連した建物や機械設備を調査研究し保存することで、会員数は全国に約600名です。検見川送信所も産業考古学の観点からみると電気通信業の貴重な産業遺産です。

はじめに結論として次の4点を指摘しておきます。

- ① この一見すると大規模な廃墟は、実は貴重な文化財だということ、
- ② なので、その本格的調査と保存が強く望まれること、
- ③ 保存と活用には、相当の修復が不可欠であること（→相当の経費がかかる）、
- ④ この建物を地域のシンボルとして、公共の施設として活用しながら保存再生を図ることが経費面からも肝心であること。

#### 1 「文化財」としての理解が不可欠！

この貴重な遺産を保存するためには、その価値をきちんと評価することからスタートするのが一番です。その価値を知ってくだされば、市民の皆さんはもとよりのこと、行政機関も、きっと保存修復に賛同・支援していただけるからです。

すでに専門家の皆さんが指摘しているように、この建物は少し硬い言葉になりますが、「わが国初の国際放送を送信したという歴史的に重要な意味をもつ、日本の近代化に貢献した産業遺産」すなわち文化庁のいう「近代化遺産」であることは明白です。別の言葉でいえば、文化財であることです。

従来、文化財というと、とかく社寺仏閣等の建造物、仏像などの彫刻絵画などに限られていましたが、近年は明治以降の産業遺産も重要文化財に指定されるようになってきました。旧検見川送信所の大規模な建造物もこうした文化財に該当すると思われます。

次に、この建物が価値がある理由をとりあえず5項目、すなわち、①建造物としての価値、②吉田鉄郎の建築作品としての価値、③電気通信施設としての歴史的価値、④政治外交史の証人としての重要性、⑤地域の遺産として活用すべき価値の五つに分けて次回に述べてみましょう。この文化遺産を多面的に評価することで、これまで埋もれていた価値がいつそうはつきり浮かび上がりますから（続く）。